

平成 20 年度広域ブロック自立施策等推進調査

犠牲者ゼロを目指した住民力の強化による
安全安心なまちづくり方策に関する調査
(その 1 : 災害リスクに関する情報整理等)

要 約 編

平成 21 年 3 月

国土交通省 都市・地域整備局 都市・地域安全課

目 次

第1章 調査概要	1
1-1 調査の背景	1
1-2 調査の目的	1
1-3 調査の内容	1
第2章 災害リスクと土地利用の関係の分析	3
2-1 新潟市における災害リスク	3
2-2 新潟市における土地利用等	7
2-3 災害リスクと土地利用等の関係の分析	10
2-4 災害リスク情報の提供方法の検討	14
2-5 災害リスクと土地利用の関係の分析結果	15
第3章 安全安心に対する市民意識・ニーズの把握	17
3-1 行政に対する市民意識・ニーズ	17
3-2 地域の活動に対する市民意識・ニーズ	18
第4章 まとめ	19
4-1 災害リスクを踏まえた土地利用の課題	19
4-2 安全安心に対する市民意識・ニーズの把握	20

第1章 調査概要

1-1 調査の背景

近年、自然災害、犯罪被害、環境、心身の健康、子育て、介護、食の安全の問題など、市民生活を取り巻く様々な不安が広がっており、「人々が安全に安心して暮らせる社会」の構築が喫緊の課題となっている。特に、同時に多くの人に被害が及ぶ自然災害が発生した場合には、人と人が助け合い、支え合う地域コミュニティが果たす役割は重要であるとの指摘があるが、従来型の地域コミュニティは、個人意識の高まり、核家族化、少子高齢化の進展と相まって急速に空洞化が進んでいる。

一方で、社会の成熟化、社会への貢献意識の高まり等により、NPO、企業、住民団体等の多様な主体によるボランティア活動等の広がりがみられており、災害時等においても防災に向けた取組みを、自らあるいは共に進めていく「自助」、「共助」を促進していくことが期待されている。

安全安心なまちづくりを進めていく上で、ハザードマップなどの災害リスク情報が重要な役割を果たすことが期待されることから、適切な災害リスク情報の提供のあり方やそれを踏まえた住民力強化による安全安心なまちづくり方策の検討が重要となっている。

1-2 調査の目的

本調査は、新潟市をモデルとして、住民、学校、事業所、NPO等の多様な連携を促し、防災を軸とした安全安心なまちづくりの方策を検討するために必要な情報を整理・分析することを目的とする。

1-3 調査の内容

本調査は「犠牲者ゼロを目指した住民力の強化による安全安心なまちづくり方策に関する調査（その1：災害リスクに関する情報整理等）（以下、「調査その1」という。）」と「犠牲者ゼロを目指した住民力の強化による安全安心なまちづくり方策に関する調査（その2：新潟市における社会実験等）（以下、「調査その2」という。）」の二つの調査の連携により実施したものである。

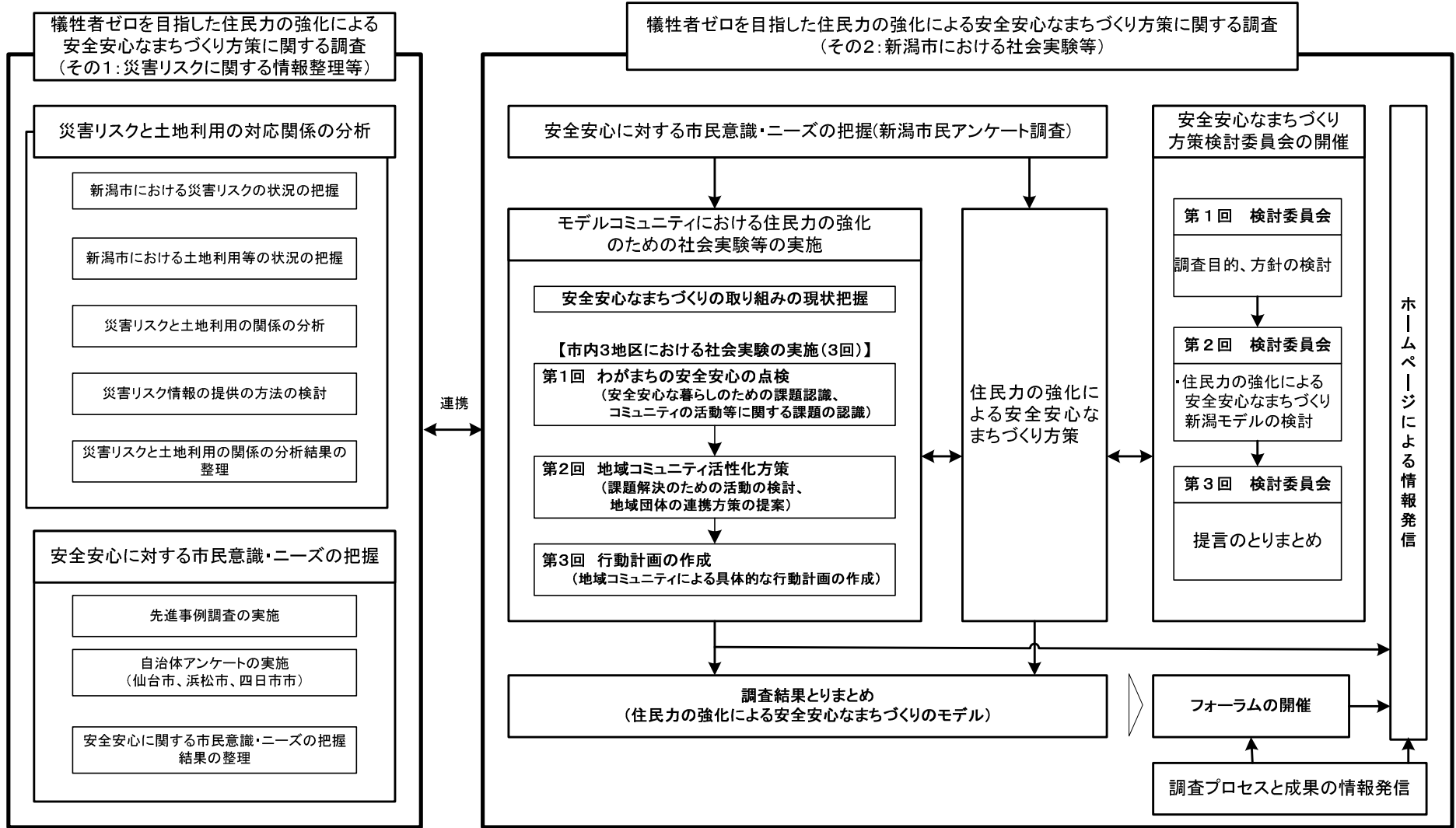
1-3-1 災害リスクと土地利用の関係の分析（第2章）

新潟市を対象として、水害、地震等のハザードマップ等の災害に関する情報や市街化区域、人口集中地区の範囲、高齢化率や昼夜間人口比率、公共施設や社会福祉施設の配置等の土地利用に関する情報を収集整理し、地図上での情報の重ね合わせ等を行うことにより、災害リスクと土地利用の関係について分析した。

1-3-2 安全安心に対する市民意識・ニーズの把握（第3章）

多様な主体の連携により行われている安全安心なまちづくりに関する取組み事例を収集する。また、アンケート調査（3地域）により、地域住民が主体となった災害対策の取組みを行っている地域の安全安心に対する市民意識・ニーズについて把握した。

図 1-1 調査フロー



第2章 災害リスクと土地利用の関係の分析

新潟市を対象として、自然災害リスクに関する情報および都市構造、社会特性、防災拠点に関する情報を収集整理し、図上で重ね合わせ等を行うことにより、災害リスクと土地利用等の関係について分析した。また、各種ハザードマップ等の情報について、住民への提供方法について検討を行った。

2-1 新潟市における災害リスク

新潟市において発生する自然災害リスクを把握するために、地形の概要、地震災害、津波災害、水害、土砂災害について整理した。

2-1-1 新潟市の地形の概要

地形や地盤の視点から、新潟市が本来持つ災害への脆弱性に関すると考えられる要素を整理した。その概要は図2-1、および以下のとおりである。

- ・新潟市は、信濃川と阿賀野川の二大河川によって形成された越後平野の中央部に位置している。
- ・越後平野は、大半が標高5m以下であり、至る所に旧河道、後背湿地が見られる低平な沖積平野となっている。市内の標高の高い地域は、新潟砂丘、弥彦山・角田山、新津丘陵のみとなっている。
- ・昭和33年以降、海岸部や中ノロ川流域で地盤沈下が進行し、海拔ゼロメートル地帯が拡大した。地盤沈下の原因は、水溶性の天然ガスの採取にあると考えられ、昭和34年に規制を行って以降は沈下量が減少している。
- ・越後平野は、沖積層が150m前後と厚く、軟弱地盤という特徴を持っている。
- ・かつては潟が多く存在したが、埋立てにより現在では鳥屋野潟、福島潟、佐潟等を残すのみとなっている。

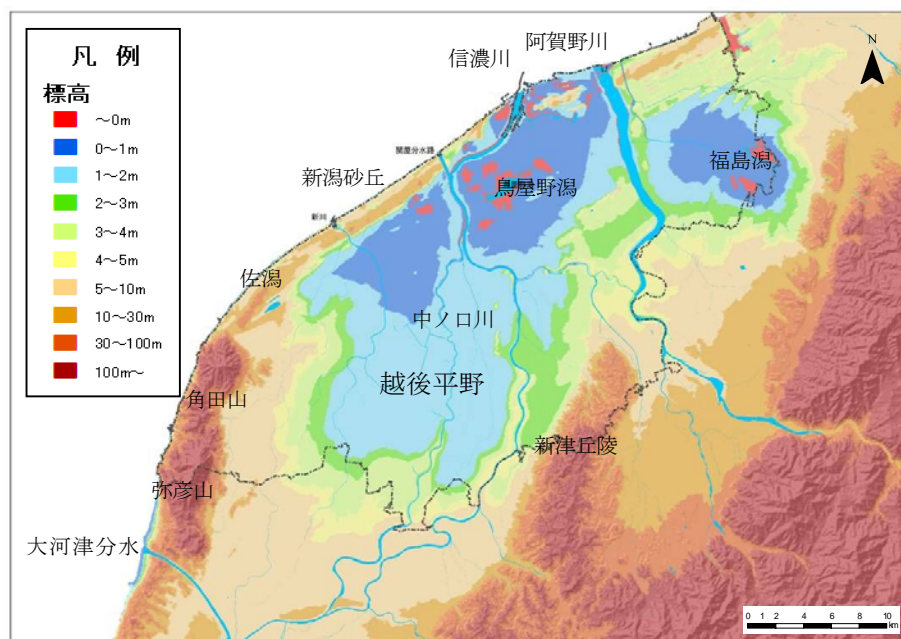


図2-1 新潟市の地形（黒線内が新潟市の範囲）

出典：国土地理院、「数値地図50mメッシュ（標高）」（平成13年）等